

## 佐世保みかんを使って地域貢献



小森 音々 (こもりねね)  
長崎県立佐世保南高等学校 2年

## 佐世保みかんを使って地域貢献

小森 音々



### 活動概要

#### 活動の内容

- 7月18日 JA西海に勤めている松永さんと明時さんと事務所でみかんについてのお話とみかんについての質問
- 8月2日 みかん農家の坂口さんと宮地区の畑に行ってお手伝い
- 8月3日～17日 畑に行った際にもらった摘果みかんの糖度調べ
- 9月12日 ハウスみかんを使ってドレッシング作り
- 9月13日 ハウスみかんを使ってポン酢作り
- 10月25日 畑に行つて廃棄みかん回収のお手伝い
- 10月30日 チョーコー醤油さんとコラボできないかお問い合わせ

#### 活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は実際に商品を開発して販売を目指しているところです。また、農家、企業、高校生が連携するプロジェクトというところです。そしてこの探求を進めている期間だけでなく、年間を通したミカン産業の安定化に貢献でき、地域経済にもつながるところです。

#### 活動の成果

まだ進めている途中なので成果は得られてません。

### 課題の設定と意図

課題は規格に入っていないみかんが活躍できていないところです。

みかんを作る過程で必ず摘果みかんや廃棄みかんが出来てしまいます。廃棄みかんは皮が少し傷ついたり既定のサイズに満たないだけで廃棄されてしまいます。見た目やサイズの問題で市場に出せないのはみかんがもったいないと思いつくことはできないかと思いつきました。実際廃棄されるみかんの味は問題はなく、とてもおいしかったのでこのみかんたちを何とかして市場に出せないか考えたところ加工してドレッシングにすればいいのではないかと思いつきこの課題を選びました

### 課題解決のための仮説と計画

初めは摘果みかんを使ったドレッシングを作ることで話題性が生まれ地域貢献につながるのではないかと仮説の元探求を進めていました。しかし農家さんやJA西海さんたちとみかんについてお話した結果、摘果みかんは農業や回収の面で使えないことが分かりました。なので私は摘果みかんから規格外や廃棄みかんに視点を変えました。その方向性で探求を進めてドレッシングを作ろうと思いつきましたがまた、課題が生まれました。それは作ったドレッシングがあまりおいしくなかったことです。なのでお母さんのアドバイスでポン酢を作ってみました。そしたらとても美味しかったのでドレッシングとポン酢の需要と供給を考えた結果ドレッシング作りからポン酢作りに変更しました。

なので規格外みかんを使ったポン酢作りに変更しました。

実践活動の計画はまずみかんについて詳しく知りたかったので自分でみかんについて調べた後、調べたけどわからなかったところを聞き取ったのでJA西海さんにお問い合わせしました。その後は佐世保のみかん農家さんを調べました。なかなか農家さんが見つからなかったのですがお母さんの職場の知り合いにみかん農家さんがいたので連絡を取りお話ししました。



## 活動で工夫できたこと

実践活動で工夫した所は事前準備を工夫したところです。農家さんに失礼がないよう、質問リストを作ったり、取材前に佐世保みかんの特徴や歴史を調べておき、深い話が聞けるようにしました。また、畑を回るとき写真・メモを取り、後で比較できるようにしたり、同じみかんでも日当たりや斜面の違いで変わる点に注目しました。そして畑に足を運ぶことで、みかん作りの工程や苦労を自分の目で確かめることができ、現場から一次情報を得る力が身につきました。また、農家さんに話を伺う際には事前に質問を準備し、相づちや質問の仕方を工夫したことで、より深い話を聞き出すことができました。



## 活動で得た学び・気づき

今回の探究活動を通して、私は「佐世保みかん」という身近な農産物に対する理解を深めただけでなく、地域との関わり方や情報の捉え方について大きな学びを得ることができました。まず、実際に畑へ足を運び、農家さんの仕事を自分の目で見たことで、普段の生活では気づかない多くの現実に触れられることが出来ました。みかんの木の管理や収穫の大変さ、天候による品質の変化、担い手不足など、資料だけでは分からない“現場ならではの課題”を肌で感じたことは、地域産業を「自分ごと」として考えるきっかけになりました。また、農家さんから直接お話を伺う中で、作業へのこだわりや誇り、農業の厳しさ楽しさなど、生の声を聞くことの大切さを実感した。自分で質問を準備したり、相手の話から新たな疑問を生み出したりする中で、コミュニケーション力や聞き取りの姿勢も自然と鍛えられたように感じています。

さらに、この活動を続ける中で、みかんという一つの農産物を中心に、地域全体を多角的に見る視点も身についた。農業は単に作って終わりではなく、加工、販売、PR、観光との連携など、さまざまな分野と関わり合いながら成り立っていることを知ったことで、地域の活性化には多方面からのアプローチが必要だと理解するようになりました。

今回の体験を通して、私は教室の中だけでは得られない学びを自分の力で取りに行く姿勢が身についたと思います。地域の人とつながることで得られる温かさや、協力しながら何かを作りあげていく喜びにも気づくことができました。今後はこの経験を生かし、佐世保みかんを軸とした具体的な地域貢献のアイデアを形にしていきたいです。探究活動を通じて得た学びは、知識だけではなく、地域をよりよくしたいと思う気持ちや行動力へとつながっていると実感しています。

## 今後の展望・新たな取組み

今回の探究活動で佐世保みかんの畑を訪れ、農家の方々や直接話をする中で、私は「自分で動き、現場を知ること」の大切さを強く実感しました。この経験を通して得た行動力や、相手の思いを受け止めながら聞く姿勢、そして課題を自分ごととして捉える視点は、今後の社会との関わり方において大きな財産になると感じています。今後の人生では、何かに興味を持ったとき、ただ情報を調べるだけでなく、自ら足を運び、現地で見聞きし、人と対話する姿勢を大切にしたいと思います。そうすることで、自分の判断の精度は高まり、より主体的に行動できるようになるからです。

また、地域の方々や優しく手伝ってもらった経験から、地域に関わることに価値にも気づくことができました。特産品である佐世保みかんを通して地域の人たちの思いや努力を知ったことで、私は今後も自分が育った地域と関わり続けたいと考えるようになりました。地域で起きている課題に対して、若い自分だからこそできる役割を見つけ、小さくても行動することで、地域に貢献できる人になりたいです。

さらに、今回の活動で身についた「課題に気づき、解決に向けて考える姿勢」は、将来どの道に進んでも必要とされる力であるとおもいました。仕事でも、人間関係でも、社会の中で生きていくうえで、問題を自分事として考え、周囲と協力しながら行動できる人は信頼されるとおもいます。こうした姿勢を持ち続けることは、私自身の人生を豊かにし、より良い未来を築く力になると信じています。

## 実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF なし

## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	九州・沖縄
---------	---	---------	----	------	-------

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立諫早青少年自然の家	修了日	2024/4/24	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2025/8/2 ~ 2025/10/30				
活動のタイプ	新たな活動				
共同実施者	無				
協力者		主な協力者	協力内容		
	所属				
	氏名				
	所属				
	氏名				
	所属				
協力者総数	1名		協力団体数	団体	

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 154 日

事前:準備・打合せ	30日	本番:メインの活動	96日	事後:ふりかえり・報告	28日
-----------	-----	-----------	-----	-------------	-----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
8/2 ~ 8/2	①事前学習・打合せ等	宮町	農家さんとお話し、畑のお手伝い
9/12 ~ 9/13	①事前学習・打合せ等	自宅	ドレッシング作り、ポン酢作り
8/3 ~ 8/17	①事前学習・打合せ等	自宅	摘果ミカンの糖度調べ
10/25 ~ 10/25	①事前学習・打合せ等	宮町	廃棄みかん回収のお手伝い
10/25 ~ 10/30	①事前学習・打合せ等	学校	チョコー醤油さんにお問い合わせ